

2023年度 臨床研修プログラム

病院名: 昭和大学横浜市北部病院

プログラム名: 基本プログラム

プログラム責任者名: 緒方 浩顕

定員数: 20名

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
		1~4週	5~8週	9~12週	13~16週	17~20週	21~24週	25~28週	29~32週	33~36週	37~40週	41~44週	45~48週	49~52週	
		(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	(4週)	
1 年 次	外来	2W						-	-	-	-	-	-	-	-
	分野	内科(24W)						精神科(4W)	救急(8W)	麻酔科(8W)	外科(8W)				
2 年 次	外来	-	1W	1W	-	-									
	分野	産婦人科(4W)	小児科(4W)	地域医療(4W)	救急(4W)	選択科(28W)									

必修科 (2年次は5月から翌3月まで)

※一般外来研修4週以上を含む

研修プログラムの特色	<p>昭和大学横浜市北部病院は、横浜市の地域中核病院の一つであると同時に、大学病院としての教育機関という2つの特徴を有しています。従って、当院の基本プログラムでは、多くの救急症例を通して多数の未診断症例を、また大学病院が故に比較的稀な疾患までを経験することができるという強みがあります。さらに住民の平均年齢が若く、かつ平均寿命が長いという地域性により、小児から高齢者まで幅広い年齢層の患者における、いわゆるcommon diseaseを多数経験することが可能です。当院には大学病院としては数少ない緩和ケア病棟や精神科病棟も併設されており、癌や認知症を含めた幅広い疾患への対応を通して、多彩な臨床経験を積むことができます。中でもチーム医療研修の一環として、褥瘡(NST)・緩和・リエゾンの各ラウンドにも参加し、医師・看護師以外の多職種からの評価を受ける体制があります。</p> <p>1年次は内科24週、外科8週、麻酔科8週、救急8週および精神科4週を当院にてローテーションします。</p> <p>2年次は院外での研修も含め、産婦人科4週、小児科4週、地域医療4週および救急4週をローテートし、残り28週は自由に研修科を選択できます。選択科は1年次に回った科でも回らなかった科でも、また昭和大学附属4病院の診療科であれば、期間などの制限なくローテーションすることができます。</p> <p>一般外来研修は、主に内科研修、小児科研修、地域医療研修時に実施しますが、単位不足分は選択科内で調整の予定です。</p>
臨床研修の目標の概要	<p>厚生労働省の定める臨床研修の到達目標に準拠し、“将来専門とする分野にかかわらず、全ての医師に必要とされる一般的な診療において頻繁に関わる負傷や疾病に適切に対応できる基本的診療能力を修得すること”を目標としています。さらに研修医は各自の目標を設定し到達に向けて努力することが重要で、本プログラムはその達成を全力で支援します。</p> <p>昭和大学では、学是である「至誠一貫」(真心をもって何事にも立ち向かう)のもと、知識・技能の修得に加え、患者および家族への思いやりと、医療人同士を敬愛する心を育むことを重視しています。</p>
研修課程	<p>1) 1年次ローテート科および2年次産婦人科と救急は、横浜市北部病院での研修とします。(2年次小児科は、横浜市北部病院での研修または「横浜市北部病院および藤が丘病院」での研修とします。)</p> <p>2) 内科研修では、内科※、呼吸器センター、消化器センター、循環器センターから選択し、8週×3科の計24週ローテートします。</p> <p>※内科は総合診療を基礎とし、腎臓内科グループ、神経内科グループ、内分泌・代謝グループ、リウマチ・膠原病グループが含まれます。ローテート科は各自の希望を確認後、診療科の受け入れ人数などをふまえて決定します。</p> <p>3) 救急研修では、1年次に8週、2年次に4週ローテートします。</p> <p>4) 外科研修では、外科、呼吸器センター、消化器センター、循環器センター、こどもセンター外科から1科を選択し、8週ローテートします。ローテート科は各自の希望を確認後、診療科の受け入れ人数などをふまえて決定します。</p> <p>5) 一般外来研修は、主に内科研修、小児科研修、または地域医療研修(一般外来研修が可能な施設を選択)とあわせて4週以上の期間で行います。尚、週数不足の場合は選択科目内(28週)にて調整します。</p> <p>6) 選択科目については、研修協力病院の希望科にて任意の期間(4週~28週)で研修を行うことができます。この自由選択期間(28週)において1年次に研修した科を再度ローテートすることも可能ですし、将来の進路を加味した診療科研修(昭和大学の複数協力病院であれば)も可能です。また、画像研修(放射線科)を選択すれば、全科にまたがる放射線診断をより系統的に学ぶことができますし、緩和ケア研修(緩和医療科)では、当病院内に併設されている緩和ケア病棟にて、がん疼痛治療や心理社会的側面にも目を向け、緩和ケアチームの一員として全人的な対応法を学ぶことができます。</p> <p>7) 病院長、プログラム責任者が定期的に面談を行い、到達目標を確認します。</p>